

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 牧山 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

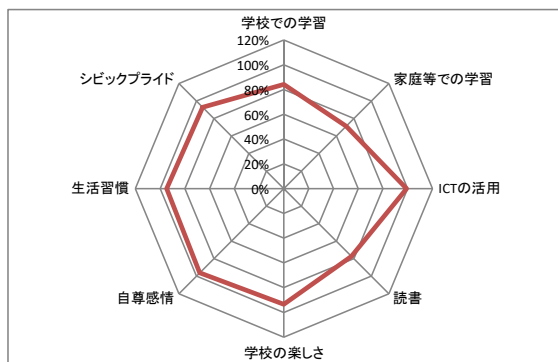
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に平均正答率は、全国正答率を下回っている。特に「話すこと・聞くこと」の領域は、全国平均正答率と比べて、平均正答率が低い。また、記述式の問いに対して、無回答率が高くなっている。一方で、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域や全体的な「知識・技能」の平均正答率は、全国平均正答率と同程度である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問い	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問い	
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的に平均正答率は、全国正答率を下回っている。特に「数と計算」の領域は、全国平均正答率と比べて、平均正答率が低い。また、記述式の問いに対して、無回答率が高くなっている。一方で、「データの活用」の領域の平均正答率は、全国平均正答率と同程度である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる問い	
	努力が必要な問題	一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる問い	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」との問いに対して、約97%の児童が肯定的に回答している。 ・主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が「わかった」「おもしろい」と思える授業にすることが必要である。 ・「学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の問いに対して、肯定的な回答をした児童の割合が低い。 ・児童が計画的に家庭学習に取り組むことができるように、家庭との連携を深め、児童の学習の様子を保護者と共有していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

児童が基礎的・基本的な知識及び技能をしっかりと身に付けることができるように、ドリル学習等の反復練習に計画的に取り組む。また、自主的・自発的に学習したことを身の回りの事象と関連させながら、学習に取り組むことができる授業づくりに努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

学校だよりや学年だより、懇談会等を通して、本校の取組や学習の課題を保護者に周知し、啓発を行う。また、家庭での学習習慣について、保護者と連携しながら、継続的に児童に指導していく。